

同人作品

北上南下、冬の旅 秋山義仁

海忘れたんぼ忘れた人は皆都会を目指す触れ合い忘れ

灰白く長くて高い堤防続く福島沖に原発近いよ

どこだろう新らしき家ばかりきつとここにも津波は来たんだ

いわきから岩手へ続く長堤高台は古家平地は新築

岩泉小本の岸边に白鳥昔通り駅前は飛び飛びに白い家海まで続く

トンネルの先は又トンネルの北三鉄の今日は晴天海はコバルト

沢沿いのわずかな土地に小家がある破れガラスがバラバラヒュール

禁止でも上りたくなる階段国道つけば灯台へ階段村道

アマちゃん琥珀ウニ弁当最後のウニ弁婆々海女の匂い

啄木の新婚の家の新婚の間は二畳啄木来ずに節子一人で洪民へ

痛いいや恨らもせで父の金切れ母の病いで一家全滅

風車の間に海辺の集落と道路と線路ありて超えれば雪山

近い日は山桃食べた遠い日は紫色に口を染め桑の実食べた

小雪に雪は来にけり早すぎる降りに弥生では雪は降らない陽降り花降る

雪の日の光に当る盛岡の啄木の家の軒端の雪が我に降る

若葉摘む野辺の近くの家居では二人手枕また若菜摘む

旅に出て四日目の岸辺信濃川流れ以外は全てしろしろ

いざ聞かんこんな越後に都鳥都男は手を出し抱きして持ち去らん

夜を寒み降る初雪を身にまとう今日の宿風呂熱きを祈る

老健の続く山間ヤマアイの高みに古墳群千五百年のときざむ古里

ナカメ 石邊綾子

天災と人災のなか幕は開き行き場のないままクシヤミがひとつ
躍動の代名詞のごとプードルと値段をかわりばんこに見つつ
日本茶のペットボトルを持ち歩き飲めずに帰る外勤ひと日
意気揚々霞ヶ関から中目黒に繰り出す今宵は五感も冴える
鳥串を挟んで交わすおしゃべりはとりとめもなくされど真実
大切なことはいつでも宴席で話され決まってしまうものかな

生活する 井上省吾

高齢の講習会日が決まる車乗るには試練が多い
久しぶり野菜炒めて焼蕎麦を今日の昼の簡単御飯
秋が来た待ち望んでた涼しさが体は軽く心浮浮

蓄電池うまく使って節電をいろいろ試しデータ集める
ソーラーを屋根に取付け発電しうまく使って節電をする
電気代プロパン代も値上りし厳しさを増す家計やりくり
無駄省き家計簿を見て考えて買い物控え節約をする
水タンク雨水溜て利用する庭に畑に潤い与え
雨の音聞いてなぜだかホットする気温も下り暑さ和らぐ
冷凍庫は入りたくとも入れない物が多くて一台追加
もう少し暑さ寒さも彼岸まで雨を境いに気温も下る
暑さからやっと開放彼岸明けほっと一息よく堪えてきた
秋らしく涼しくなりて気持ちよく畑に行きてサツマイモ掘る
残暑で草もよく伸びよく目立ち汗をかきかき草取りをする
道路側草取り済んでひと休み綺麗になった後見て嬉し

天気見て布団干すのに最適と干してはみたが日射しが弱い

あちこちで争いがあり気が重い何んで仲良く出来ないものか

青空にそよ風吹いてユラユラと庭に数本コスモスの花

水仙の球根植えて春を待つ綺麗な花を願いをこめて

水仙の球根掘り移植をし立派に育て祈りをこめて

黄色くて大きくなったカリンの実お酒にするかアメにするかと

喉に良くカリン喉飴造ろうと煮出した汁気長に煮詰

掘上げた球根干し植つけに土掘り起し花楽しみに

里いもを味付けをしてよく煮込出来上り待っお酒のつまみ

キャベツを細かくきざみあたたためてトンカツのせて今夜のおかず

八代亜紀なつかしの歌聞きながら古い昔を思い出してる

昭和のいろいろあった幼なき日楽しみだけを記憶に残す

争いはいつの時代もなくならぬ夢で終るか平和な世界

元旦に大きな地震能登の街多くの人の悲しみだけが

山崩れ道路寸断家倒れ能登大地震爪痕残す

予報では午後雨か雪かも知れぬ陽のあるうちに外一仕事

星雲があたり一面包み込み用心しろといわんばかりに

雲間から陽の光のび部屋の内わづかな光やがて消えゆく

一面に黒雲おおい寒くなり時間早い戸締りをする

寒さにも負けずに咲いた水仙の力強さと美しさ見た

寒い朝庭を色どる水仙にしばし見とれて生きる喜び

朝が来たこの素晴らしい一日を無駄なく過す思い新たに

すばらしい夜明けとともに目をさまし足をバタバタ体動かす

梅 甲村雅俊

これやこの佐賀の銘菓は美味しとよクマザサ粉末入り丸ぼうろ
能登半島ゆれて笑へぬ年初めだれのはからふ自然災害

幼き日あこがれてゐたしあはせに部屋に帰れば猫が吾を待つ
黒き糸わが眼裏に住み着きてものを見るときそれが邪魔する

親は子の子は親のため人生を犠牲にするか日本家族は

梅が散る気温となりぬ記録的暑さ更新まだ冬なれど

ひとしきり啼いて走つて餌を食ひ炬燵の中へもぐるキジ白

寒きゆゑ人のこころを傷つける未熟な者を哀れみてをり

丘に立つ魚籃観音うらかな日射しの下に梅散りかかる

呑川の水きらきらと早春に海から来たかボラの大群

いづれ死ぬ三島由紀夫の自死の訳分つたやうな事いふ人も

何もない空間がただあるだけの箆笥の上へ駆け上がる猫
下の人いつもがらがらばんと部屋を借りたの失敗かなあ
豪姫はなにを興奮して走る下から苦情のきませんやうに
介護するため生れてきたやうなこれは幸せはたまた苦行
トランプが大統領になるらしく地球は滅茶苦茶な青き星
本門寺大堂の屋根ながめつつ父の手をひくわが易行道

鳥 氷室敬子

悲しみは悲しむほど深くぶすぶすと底なしのように
土砂降りには止んだというけれど姉の近くを流れる川が気になる
この鳥もどこから飛んできたかわからなくてもいい心があれば
ベランダに今朝ひと花ふた花と咲いてくるのは子供らの企てか

病みもつ人はだれもかも死の道をもつ
どこにいくのかわからない暗い暗い道

歳神様 本田洋子

歳の瀬の風は冷たくせわしくなく人の手にする荷の大きさよ
家に居て一人静かな大つごもりやり残したこと来年回しに
新年の歳神様が通られる家の門扉に松飾りして

それ以来三日三晩はお正月浮かれ浮かれの神々と共に

“うっかり”と“勘違い”とが多くなり新年迎え忍び寄る古い

枇杷の花今年も咲けりひっそりと灰かに甘く新芽のように

生きるのが辛いという兄嫁の言葉残れりかすれた声で

枯渇してポエムの泉流れ来ぬ^ここんこんと涌き出たのはいつ

うたごころ
詩情枯れることなく水道の蛇口捻ひねると出るとよいのに

安否確認

元旦のお祝いムードは何処へやら能登の地震に飛行機事故に
被災地はどんなに不安でいるだろう余震に寒さ安否確認
赤飯をそうだ炊いたの忘れ居り誰れも食わずに冷凍にせり
初詣どこへも行かず歩かずに毎年こんな新年過ごす
俊太郎の詩集返しに行きて来ぬ水仙の群れが咲きき始める処
風の無い新年八日冷たくて雪降りて凍る能登の被災地
体重を落とす努力はしているがなかなか落ちぬ年末以来
出掛けない出向いて来ない遠き故電話やメールで近況報告
ベランダにただ一鉢の花が無い初春の光いっぱいなのに
額まで布団かぶりて眠る癖寒さが鼻を摘まみくるから

花が無い土とパンジー買って来きぬ小さき春がベランダにき来ぬ
北風が姿を変えて龍唸るその吐く息で家が凍てつく

抗がん剤治療 丸山光

手術してリンパに転移告げられて避暑地のごとくベッドで過ごす
妻とともに抗がん剤の治療聞くもう来るまいと退院したのに
なお父であること願いつつ今日より抗がん剤の治療始まる
同意書はすでに三枚書きました 抗がん剤の治療始まる
慰めも励ましもなく後ろからいつもの妻が歩いておりぬ
抗がん剤抗抗うだけではだめだろう殺癌剤こそ求めています
糖尿に網膜剥離・大腸癌 奇妙不思議な三位一体
生きるため先進治療受けたいと語りし人の永遠の欠席

シャープ付き半音上がる音のごと癌のステージⅢBとなる
抗癌剤つぎつぎ説明受けながらただただハイと署名続ける
乱心を装うことも失いてガンの転移にころろ乱れる
胸切られ抗がん治療のボード埋め秘密が少し胸からこぼる
治療うけガンの患者になりきって歌はしばらく日記となりぬ
針を抜く抗がん治療の練習を妻と二人で黙して習う
痛いですよハッキリ言われ覚悟して胸を突き出し針を刺される
何をしてても良いのだろうと生きてきて何をしても癌から戻る
副作用一覧表にはないけれどこの不機嫌はそうかも知れぬ
副作用怠惰も混じり一日をトイレ以外をベットで過ごす
がん保険適用されてこれからの抗がん治療安心できる
今までの履けぬズボンがほぼ履けて抗がん治療はこの先続く

マラなどは付属の臓器にすぎぬこと大腸癌で思い知らさる
医療費と健康保険・県民税総計はるかに給与を越える
絆創膏はがす痛みも爽やかに抗がん治療初回が終わる
躊躇なく針突き立てて点滴す看護師はみな度胸満点
抗がん治療今日の患者は二百名真夏の暑さしのげる病院
聞いていたしびれという副作用しびれてみればまこと痺れる
この夏の北海道をあきらめて抗がん治療に屈して生きる
二回目の抗がん治療終えしのち大きな桃をそのままかじる
がんを病み骨格見本以外には役に立たない体となりぬ
辛いなら抗がん治療やめていい医者は私に下駄を預ける
今日もまた抗がん剤の不快感無為の時間をただただ過ごす
ガン研の空中廊下がこわくなり笑われながら真ん中歩く

とりあえず今日が最後の元気な日抗がん剤の三期目始まる
三期目は予防が効いて吐きけ止め早めに飲んでそこそこ生きる
私でも近未来なら予知できる一週間は吐きけで悩む
がんもまたわが内なるもののひとつなりそれゆえ抱え愛して生きる
吐き気どめ薬がかわり効果ありや薬価の高きの怒り忘れる
一期ごと抗がん治療は変化あり歌を詠まざる日々がつづけり
髪の毛をさっぱりすぎるほど刈り上げて抗がん治療四期目に入る
六期めの抗がん治療に抜け出して入院先からガン研へ行く
わたしよりわたしの顔を熟知するたまには妻に病状を聞く
痛みには弱いタイプのわたしです多くの人に祈りを頼む
病む時も健やかな時もと誓約し初めにボクが介護を受ける
壮絶な修行のごとくあばら出て抗がん剤を胸から吊るす

饒舌と寡黙に別れる患者たちがんの種類の部位に合わせて
受動態 *by* の後ろは神さまと肝に命じて主役を生きる

副作用薬は堆積するらしく飲まぬ期間もしびれは続く

野球ならラッキーセブン希望持ち七回目の抗がん治療

がんの歌詠いながらにがんなどで死ぬことなきとがんを歌えり

ガン研に不思議なポスター貼られおり「勇気はガンに打ち勝ちます」と

流しても水はキラキラ輝いて抗がん剤は秘所から漏れる

九期目の抗がん治療に家族なれ患者の私ひとりが慣れぬ

経験がそのまま生きぬ抗がん剤九期目にして吐きけが戻る

熱くなく冷たくもないコーラこそ抗がん治療を耐える力ぞ

抗がん剤気持ち悪いと言いながら好きなマグロはたらふく食べる

死ぬがんと死なないガンの分岐点生きる支えの君がいるから

死ぬ前にガンで死ぬなど決めぬこと死亡届は医師が書き込む
抗がん治療十一期めがまた延びて白血球の回復を待つ
ガンならば家族が嘆けば良いことで私は死ぬまで元気に生きる
ガン研の領収書がたまります払え不思議に驚いている
半年を抗がん治療に費やしてしびれを残し新年迎える
ガンになり思い出深い年終わり仕切り直して牧師つづける

